

## 高品質・良食味米生産への第一歩は健苗育成から！

～適期播種で2.0葉苗をつくりましょう～

### 1 育苗スケジュール ※早い浸種や播種は、老化苗につながります。

	育苗様式	塩水選	浸種開始	消毒・催芽	播種	田植え
5月5日 田植え	無加温育苗	3月26日 (-15)	3月28日 (-13)	4月8日 (-2)	<b>4月10日</b> (0)	<b>5月5日</b> (25~)
	加温育苗	3月31日 (-15)	4月2日 (-13)	4月13日 (-2)	<b>4月15日</b> (0)	<b>5月5日</b> (20~)
5月10日 田植え	無加温育苗	4月5日 (-15)	4月7日 (-13)	4月18日 (-2)	<b>4月20日</b> (0)	<b>5月10日</b> (20~)
	加温育苗	4月10日 (-15)	4月12日 (-13)	4月23日 (-2)	<b>4月25日</b> (0)	<b>5月10日</b> (15~)

※多収性品種で早期莖数確保する品種は、連休田植えを基本とし遅れないようにしましょう。

### 2 種籾の準備

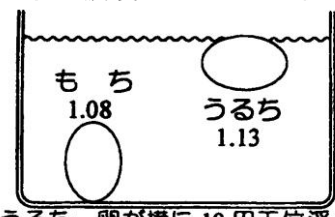
塩水選  
(播種15日前)

◆塩水選は発芽を揃え、罹病籾を取り除くために大切な作業です。購入種子であっても、必ず実施してください。

【塩水選の濃度】

種類	比重	水10%に対する量	
		食塩の場合	硫酸の場合
うるち	1.13	1.9kg	2.5kg
もち	1.08	1.1kg	1.4kg

【塩水の濃度と生たまごの状態】



うるち…卵が横に10円玉位浮く  
もち…底で卵が直立する

水洗い・水切り

◆籾を握って手に付かない位になるまで水切りを行います。  
◆浸種期間の酸素不足を防ぐため、袋詰めは7割程度の籾量にとどめましょう。

浸種  
(播種13日前)

◆酸素不足にならないよう、水の量は種籾容量の2倍程度とします。(種籾1kgに水3~3.5%)  
◆温湯消毒種子は、浸漬中に雑菌が繁殖しやすいため、こまめに水更新するようにしましょう。  
◆浸種の日数が不足すると、発芽の不揃いや生育不良が起こりやすくなります。

【品種別浸種日数の目安】

品種名	積算水温	水温10℃の浸種日数	浸種日数の計算方法
コシヒカリ ひとめぼれ 五百万石	100~120℃	10~12日間	浸種日数=積算水温÷水温 <水温10℃の場合> 浸種日数=120℃÷10℃=12日 水温は、催芽を揃えるために 10℃を下回らないようにしましょう。
こしいぶき こがねもち わたぼうし 多収性品種 その他の品種	100℃	10日間	※特に浸種一日目の水温は確実に 10℃を下回らないようにして下さい。

**種子消毒**  
(播種 1~2 日前)

- ※1 細菌性病害(褐条病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、ばか苗病)は、一度発生すると防除方法がないため、しっかり種子消毒を行いましょう。
- ※2 微生物農薬による種子消毒は、浸種前の薬液処理より、催芽直前か催芽時に薬液処理を行った方が薬剤の効果が安定します。

【微生物農薬による種子消毒と処理方法】

薬剤名	処理濃度	使用時期	浸漬時間
エコホープDJ	200 倍	催芽直前	24 時間
		催芽時	
		浸種前でも使用可※2	
タフブロック	200 倍	催芽直前	24 時間
		催芽時	



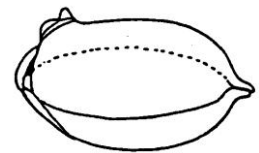
【消毒留意事項】

- ・薬液の効果を安定させるため、薬液の温度は 10℃以下にならないようにして下さい。
- ・微生物農薬による種子消毒は、従来の化学合成農薬と異なるため、最寄りの農業指導機関に使用方法の詳細を確認して下さい。

【催芽の状態 (ハト胸状態)】

**催芽**  
(播種 1~2 日前)

- ◆30℃厳守。(細菌性病害の発生防止)
- ◆催芽中の種籾の状況や温度をこまめに確認して、発芽率が80%以上となるよう催芽時間を調整しましょう。



**播種**

- ◆稚苗は1箱当たり乾籾で130~140g(催芽籾で160~170g)以下の薄まきにしましょう。
- ◆かん水は1箱当たり1ℓと十分に行いましょう。

**3 床土・覆土の準備(10a 使用箱数の目安 18 箱/60 株、15 箱/50 株)**

【床土の作り方】育苗箱 20 枚時の必要量

・慣行栽培  
(3割低減栽培)

資材名	使用量	使用時期
稚苗配合	600g	播種前 7~10 日前までに混合
床土	20 kgで 3.5 袋	
くん炭又はピートモス	16 ℓ	
タチガレン粉剤	80~160g	

・5割低減栽培

資材名	使用量	使用時期
稚苗配合	600g	播種前 7~10 日前までに混合
床土	20 kgで 3.5 袋	
くん炭又はピートモス	16 ℓ	

※JA北蒲みなみについては、タチガレン粉剤が使用出来ます。使用量:80~160g 使用時期:上記の通り

【覆土の作り方】育苗箱 20 枚時の必要量

・慣行栽培  
(3割低減栽培)

資材名	使用量	使用時期
覆土	20 kgで 1.2 袋	播種直前に混合
ダコニール粉剤	160g	

※もみ枯細菌病、苗立枯細菌病が懸念される場合は、覆土にカスミン粒剤を混和して下さい。

・5割低減栽培

資材名	使用量	使用時期
覆土	20 kgで 1.2 袋	播種直前に開封

※堆肥・土壌改良資材等を散布し、品質向上に向けた土づくりを実践しましょう